

環境モデル都市 円卓会議 会議録

部 会 名	環境学習円卓会議		記 録 者	池崎(環モ推課)
開催回数	第3回			
開催日時	平成21年8月5日(水)19時00分～21時			
開催場所	あきば3階会議室			
出 席 者	所属	名前	所属	名前
	推進委員	大嶽	相思社	高嶋
	推進委員	田中	教育旅行プランニング	吉永
	推進委員	山下	水俣病資料館	下川
	環境センター	宇田津	環境対策課	久木田
	市環境モ推進課	草野	市環境モ推進課	池崎
	出席者 計			12 名
欠 席 者	ほっとはうす	加藤	農林水産課	本田
	推進委員	久木田	企画課	栄永
	水俣自然学校	三村		
	欠席者 計			5 名
内 容	1. 前回の確認(会議録参照)、各部会の報告(事務局) ゼロウェイスト円卓会議:11月に開催される環境モデル都市フェスタのゼロウェイスト宣言等を検討しているようだ。水俣らしいものにしたい。 食と農と暮らしの円卓会議:7月9日に実質的な第1回目の会議が開催された。その際には水俣の将来像等が話し合われたようだ。方向性は今後検討していく。 自転車・公共交通円卓会議:現在は主に自転車共同利用システムについての話し合いがなされているようだ。10年前の自転車のまちづくりなども参考にしながら取り組んでいく。 ISOのまちづくり円卓会議:主に家庭版ISOの普及方法について話し合われている。 2. 環境モデル都市の事業報告 事務局) 地域講座 延べ400名の参加があった。地球温暖化の話だけでなく、ごみ女連や環境対策課にも同行してもらい、レジ袋の取り組みや家庭版ISOの話もしてもらった。市民から出た意見として、市の目標が見えない、実際にやっていることとのギャップがある、といったものがあつた。今後はアクションプランの周知もはかっていきたいと考えている。 ○ 市民からいろんな意見が出ていたが、それを総括する必要があるのではないかと。 事務局) 今後円卓会議でもそれを資料として出していくということでもいいか。 ○ 事業への参考になるし、今後の活動にも関わってくるのでお願いしたい。 ○ 18区で出た意見に、「モデル都市の最終目標が見えてこない」というものがあつた。市役所だけでなく、円卓会議でももう少し議論した方がよい。 ○ 推進委員会のなかでも出てきた意見である。現状がまずどうなのか、中・長期スパンでなにに取り組んでいくのか。 事務局) この円卓会議でも話をして、それを推進委員会にあげていこうかと考えている。 ○ みなまた環境塾の関係で、自転車・公共交通円卓会議の報告を聞かせてもらっても、ビジョンが見えてこない。 ○ 将来のビジョンについては、円卓会議と推進委員会でも、やりとりをする必要がある。もう少しグランドデザインをしっかりしなければ。 ○ ごみの分別収集の資料があるが、これについてはどう思うか。個人的な意見としては、収集について並べてあるが、どの部分にどれだけ費用がかかっているのかがよくわからない。だから、水俣市の分別収集の問題がわからない。『一般廃棄物会計』では、日本製のペットボトルは5.3円/個などと、容器別でごみ収支が載っており、そこからごみ行政を考えている。提案としては、「ごみ処理費用は誰が払うの?」「ごみを減らすためには?」といった冊子をつ			

くってはどうか。

- 南九州でRびん事業に取り組んでいるが、経産省が作成資料のなかで初めて“リユース”

を明記した。資料には、事業所、市民等の行動と成果が記載されている。

事務局) 資料を加工しないまま配布しているので、わかりにくいところがあるかと思う。これをどうやって市民にわかりやすく周知していくか。市役所としても課題の部分である。

- 発想を逆転させて、子どもたちに資料をつくってもらったらどうか。市役所など、わかっている人が資料を作成するのが問題。調べることで学習にもなる。ただ、本にしたところで読むのか。

- ごみ収支はよくわからない。データを加工してつくる必要がある。文字にしないと残らない。水俣市は環境モデル都市を打ち出して、なにをするのか。いままで取り組んできたのに。市民が水俣の取り組みを評価できるようにならないと。

事務局) 分別・収集の方法は、リサイクル推進委員に指導を行っている。最終的なごみの行き着く先を示して、だからこのように分別してね、と。参加人数は若干減少してきている。長年やっている人の中には、最初の分別方法への思いが強く、分別の変更を受け入れられない人もいる。諸事情でごみを出せない人もいるので、それをカバーするために地域で取り組んでいる。ゼロウェイスト円卓会議では、ごみステーション調査の話も出ている。

- 自分の地域のごみステーションは、分別がほとんどわかっていない。特に高齢の方は廃プラの概念もよくわからない。以前学園大が行ったごみステーション調査に参加したが、それはすぐ勉強になった。周知して市民に参加を呼びかけてはどうか。また、以前石飛で収集してもらえないものが出てきたときに、みんなで驚いてクリーンセンターの人に説明に来てもらった。そのようにしてクリーンセンターの人に出席講座のような形で来てもらうのもいいかも。

事務局) 以前は重点月間等を決めてステーションを回っての勉強会をやっていたが、いまは委託などの関係でできない。

- ごみ収集を考えたときに、統計資料のようなものもあるが、現場で汗をかくことも必要。ステーション調査も学習のひとつになるのではないか。

事務局) ステーション調査は、市内全300ステーションで実施する予定。その際には、市民調査員も公募する話があがっている。

分別も地域によって異なっている。

- 長崎によく行くと、島原市では、みんな道路にごみを出している。かえってごみ溜めのような状態。長崎市では、みんなごみにネットを張っている。

- リサイクル推進委員に、「分別の収集をどう思うか、なぜしないといけないのか、聞いているか？」と質問したところ、「市がこれをやることで評価されているので仕方がない。本当はやりたくない」という回答だった。びんの口を保護するため、雨水が入り込むのを防いで、水あかを防止するためという理由から、生きびんのふたはつけて、という願いをしたところ、リサイクル推進委員から改善しようという声は出なかった。

なぜそれをする必要があるのか、分別・収集にどれだけコストがかかっていて、それでいいのか、市民、行政に入ってもらって話し合いをしなければ。それが今なのかな、と。

教育旅行プランニングで観光者をステーションに連れて行っているようだが、その際に困ったことなどはあるか。

- 特に困ったことはない。車が危ないくらい。水俣の人は、来た人にもすぐ説明してくれる。たいしたものだ。

今後のことについては、方向性をどうするのか。対象者は。課題を並べるだけでは進まない。対象者は、大きく分けて4つ。小学生、中高生、リサイクル推進委員、一般市民。一般市民は、新入者と高齢者のさらに2つに分けられる。内容は、お金のことも含めて、ごみを減らすための手法と将来のビジョン。検討課題は、市民の慣れにどう対応するか、誰がそれを説明するかといったこと。本当はやりたくない人のモチベーションをあげるのがビジョンである。

個人的な提案としては、紙芝居(7枚7分)を作成したらどうか。もっと知りたい人には、詳しい資料を渡せばよい。年に1回の組の集まりの際に、①ごみ問題の現状とごみを減らすための手法、②市のビジョンについての紙芝居をするのは？あとは学校での学習プランを考える。子供用と大人用は各30分程度、リサイクル推進委員は2時間程度。

- リサイクル推進委員は年度ごとに交代してしまうところもあるので、ごみ分別のエキスパートを養成するのはどうか。ごみ収集日に、地域の人にはごみの分別間違いなどを指摘しにくいので、資格があったら言いやすい。リサイクル工程の現場を見ることも大切。びんのふたを外すかどうかは、田中商店とクリーンセンターで違う。
 - それは、ふたを外すことの理由が明確じゃないから。水俣市はごみ問題に15年取り組んできて、成果を出してきた。今ではごみが体験料としてお金を落としている。一方で、市民がごみの分別に慣れてしまっているという問題もある。学習の手法を新しくする時期に来ているのではないか。
 - 一つの提案として、平日ごみを出せない人のために、土日どこか1つのステーションを開設し、そこでごみ出し、見学が出来るような場があればよい。
 - その部分をカバーできれば、現場で環境学習ができると
 - 学習プログラムも含めて、専門の業者に委託してしまうのもいいのではないか。自分たちの収入にも関係があるから、真剣に働くのでは。
 - びんのふたは、雑びんはふたがついていたら困る、生きびんはふたがついた方がよい。というのは、コンテナにびんを寝かせて回収すると傷がつくから。そういったことが分析されてこなかった。不良びんの割合は全体の20%にもなる。クリーンセンターとリサイクル推進委員にも話をしたが、広がらなかった。
 - ごみの分別に慣れてしまって、“なぜ？”がだんだん気にならなくなったのではないか。それが問題。それを何とかするのがこの円卓会議である。
 - 生きびん等を酒屋さんに返して田中商店に回収してもらうシステムはどうか。酒屋さんにびんを返すことで環元金もある。買い物に行ったついでに、10本出して100円もらって、ということができれば。
 - びんの状態はいいが、そういう店自体が少なくなっている。なので、行政の施設に自分たちのケースを預かってもらえれば、行政の収集経費がかからないし、不良びんも少なくなる。それと、環元金の仕組みを変える必要があるのでは。
 - ステーションにびんを立てていれるようなケースを置いたらどうか。
 - ステーションに仕分けつきのケースを置くのは以前やったが、かさばる、びんが持っていかれる等の理由でやめてしまった。
 - ハードの部分と環境学習の部分は分けて考える必要がある。
 - 田中商店や処理業者から現実的な話を聞かなければ。リサイクル推進委員の本音の部分も。リサイクル推進委員の役回りを地域で押し付けあうのも課題のひとつ。その解決策の一つに、お金やおいしい研修が受けれる等の得点がある。
- 事務局) 以前は研修旅行を行っていたが、いまはやっていない。
- 最終的には、水俣がこうなったらというビジョン。振興公社やNPOに委託するにしても、ソフトを持っていない。
 - “業”として取り組まなければうまくいかないのではないか。
環境センターの現状はどのようになっているか。
 - 子どもたちは学校ISOでごみの分別への取り組みはやっている。そのレベルを上げるための取り組みをすることは出来ると思う。環境センターとしては、問題提起の点で役割を担えるのではないか。
 - 水俣市の取り組み自体を環境学習の教材として扱っていけないか。マンネリを打開していくためのソフトを活かすフィールドを環境センターに担ってもらえれば。
 - クリーンセンターでごみの現状を見るのは衝撃的な体験。そういう機会をつくっていくべき。しかし、特定の人にしかできていない。体験できる仕組みが必要なのではないか。
- 事務局) 目的と収集、それらをコーディネートする機関、それぞれで仕組みが足りないのではないか。それはゼロウェイストが担うのか、環境学習円卓会議での提言として出すのか。
- ごみのことではISOがなされてこなかった。ISOと経済を目的、収集、コーディネート機関の3つに加えていく。あとはソフトがないからこうなる。委託先にソフトを求めるのも課題かな。
 - 22分別の仕組みの行き着く先を考えたときに、どのようにして出したら高く回収してもらえるのかを考えるのも方法の一つである。入札した業者に聞いてみればよい。あとは見せ方。資料

の作り方である。

- 資料館としては、水俣病だけで市民の方に来てもらうのは難しいかと考えている。語り部に行ってもらえることはできるが。あとは企業に資料館に来てもらえるような仕組みはできないか考えている。環境センターと資料館、双方ががんばれば、来客に関して相乗効果がおきるのではないか。ごみのスペシャリストの話では、スペシャリストを養成しなくともできることはないだろうか。紙芝居のアイデアはよい。紙芝居と併せてDVDを作成すれば、説明も高いレベルで行えるのではないか。
- 保育園に行った際に、ごみの紙芝居をやった。そうすると、園児たちが「水俣のものとは違う」と指摘した。“水俣”の紙芝居をつくったらどうか。
- 紙芝居はごみ女連で以前作成したが、いまはもうやっていない。
事務局)ごみ女連の紙芝居は、次回持ってきて皆さんに見てもらう。
- おもしろさも必要。
- 甘夏みかんの紙芝居(11枚、15分)があるが、昔、お芝居をやっていた人が朗読するので、大変人気がある。朗読など、そういう技術的なこともある。
- だれが説明するかについては、子どもたちとつくるのも一つの方法。
- 最初に研修の対象とすべきなのは、リサイクル推進委員なのではないか。
- 子どもたちが作ったものを、推進委員に見せるのはどうか。
- 以前は市長への直行便などがあったが、いまは市民が意見を言える場が少なくなっている。将来のビジョンは、世代や職業によっても異なるが、市民からも将来の地球や水俣についての意見をもらえたら。その意見を言える場がいろんな場所にあるとよい。
事務局)方向性や対象者、内容及び現状把握、周知方法、課題など、今回出た意見を分析して、次回の議題としたいと思う。
- ゼロウェイストに出席したが、その際には、みんな関心があるごみ問題をわかりやすく伝えていくことは大切だということで話をした。
- あまりごみ問題に特化すると環境学習円卓会議の意義がなくなるのではないか。この円卓会議ではなにを核としていくのか。
- この円卓会議では“仕組み”を考えているのではないか。市民と私たちがどのように考えていくか。そうすると他の円卓会議にも使えるのでは。
- では、この部会ではごみのことをモデルケースとして市民の学習方法を考える、そこから水俣らしい環境学習の仕組みをつくるということか？
- 環境学習円卓会議が他の部会の中心にならなくては。
- 人材育成の観点からは、地域講座で出てきた意見を市民に投げかけていくのも大切なことだと思う。
- それに対して、他の人の意見はないか集約していく。環境モデル都市に対して、市民から意見を受け付け、それを市報に明記していくのはどうか。
- 意見を投げかけることでメシが食えないと続かない。例えば、水俣での修学旅行は、投げかけることでお金をもらっている。ISOを維持しているとお金が入ってくる。そういうことが考えられないか。
- 自治会員をしていると、年間の報酬が1万円もらえる。モチベーションのためになにをプラスしていくのか課題。
- ISOを見たけど、行政でできること、民間にできることがある。民間にできることがあれば、任せればいい。実際に活動をして削減できた分は民間にまわす、雇用も生まれる。
- 解決策として、ごみを管理している団体に国、県が金を出して維持させる。ヨーロッパでは、市役所と民間で入札を行い、市役所が落札出来ない場合は担当課職員がクビになるという制度がある。
- デポジット製をマニフェストで宣言しているところもある。デポジット製にすると、ごみを出す事業者が責任を持つようになるので、ごみが減ることにつながる。
事務局)ごみを出さない、燃やさない。埋め立てないに向けて取り組んで生きたい。
- 意見集約箱の設置や簡単なアンケートを実施するとよいかもしれない。

次回の日程

9月30日(水) 午後7時～ 場所はおって連絡する。